

学校給食と食生活に関する アンケート調査報告



平成18年11月

安芸高田市学校給食検討会議

目次

□ 調査の概要	P. 1
□ 調査結果と分析〔児童・生徒〕	P. 3
□ 調査結果と分析〔保護者〕	P. 11
□ 中学校給食に関する意向	P. 17
□ 調査のまとめ	P. 19

調査の概要

1 調査目的

今後の学校給食のあり方や調理場の再編整備のあり方について、「安芸高田市学校給食検討会議」を設置し、現在検討を進めている。

検討会議では、アンケート調査を実施して、広く給食に関する子どもや保護者の意向を調査分析し、検討する上での参考にすることとした。併せて、食生活に関する調査項目を通して、食育について見直す機会とする。

2 調査対象

<児童・生徒>

市内小学校【13校】 5年生・6年生児童（560人）

市内中学校【6校】 1年生・2年生生徒（574人）

計：1,134人

<保護者>

市内小学校全保護者（1,341人）

市内中学校全保護者（838人）

計：2,179人

〔※2人以上の児童・生徒の保護者は、最年長の学級を通じて、1通のみ提出〕

3 実施期間

平成18年10月23日(月)から10月31日(火)

4 調査方法

市教育委員会から学校長へ依頼し、各小・中学校へアンケート用紙を配布し、後日回収

5 調査項目

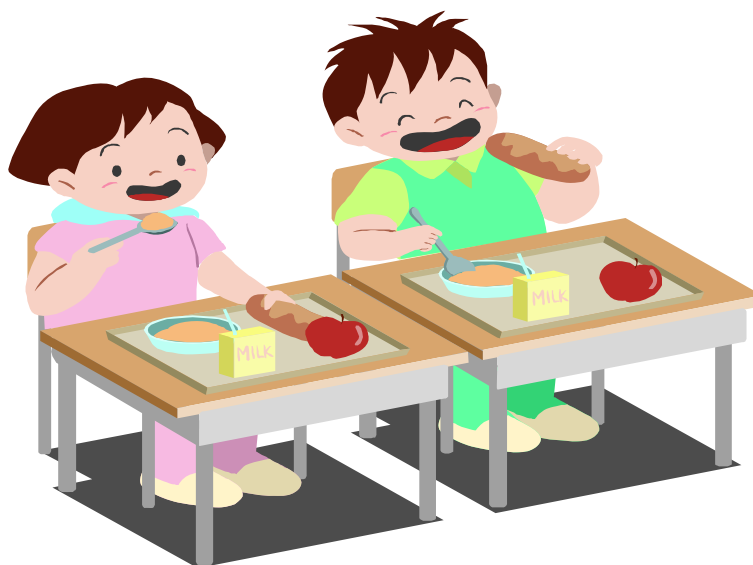
<保護者>

- 児童生徒の朝食喫食の状況とその理由
- 家庭での食事づくりの傾向
- 食生活指針への取組み状況
- 中学校給食の実施に対する意向
- 学校給食に関する評価・要望等

<児童生徒>

- 家庭での食生活
- 学校給食（弁当）についての考え
- 中学校給食の実施に対する意向

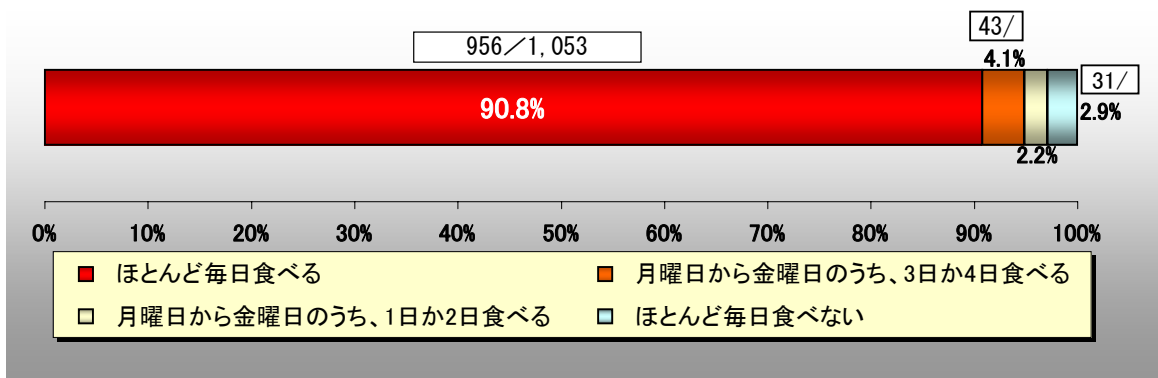
6 調査機関 安芸高田市学校給食検討会議



調査結果と分析

児童・生徒

問1 あなたは、毎日朝食を食べて学校に行っていますか。（1つ回答） 【回答総数：1,053】



問2 けさ朝食は何を食べましたか。（食べたものを全部記述）

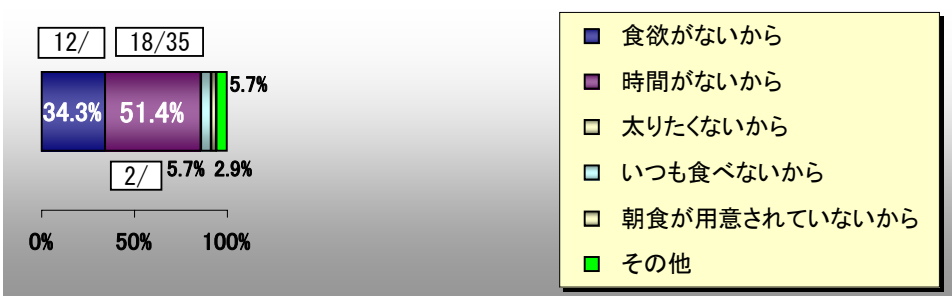
□結果

- ほとんどの児童・生徒が毎日朝食を食べている。
- 「ほとんど毎日食べない」と回答した人は2.9%で、内訳は小学生11人、中学生20人。

■分析

今回の調査以外の類似調査の結果においても、同様の傾向が見られ、朝食を摂食する習慣については、しっかりと身につけていると考えられる。

問3 <<問1で「ほとんど毎日食べない」と答えた理由（1つ回答）>> 【回答総数：35】



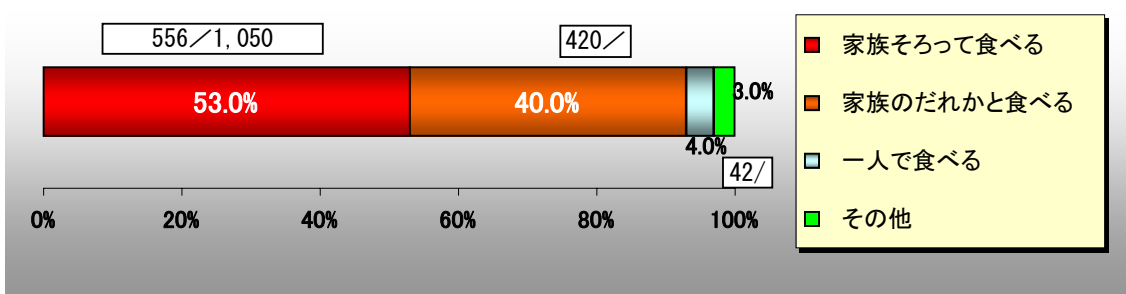
□結果

「ほとんど毎日食べない」と回答した理由は、時間がないが半数、食欲がないが全体の1/3。

■分析

「時間がない」、「食欲がない」のは、夜更かし等による寝坊や睡眠時間が短いことに起因していることが考えられ、生活リズムの見直し・改善が求められる。

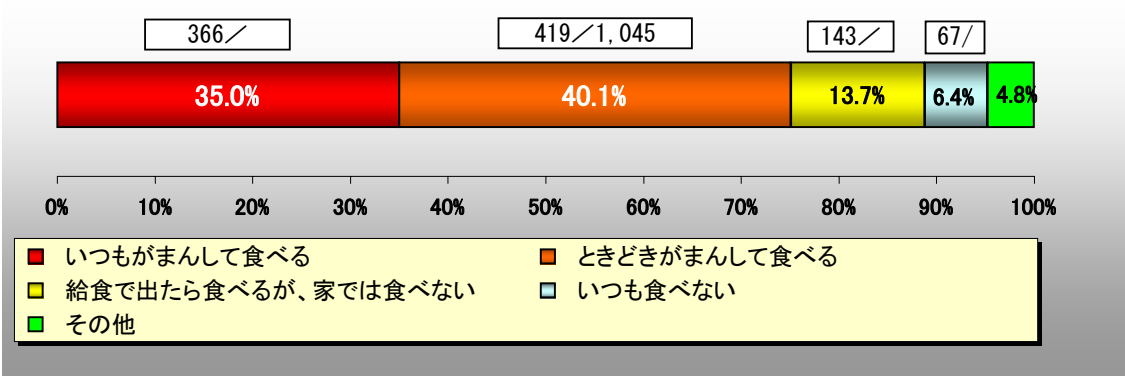
問4 あなたはふだん夕食はだれと食べますか。（1つ回答） 【回答総数：1,050】



□結果

「家族そろって食べる」が半数以上で、「家族のだれかと食べる」が4割。その他についても、「仕事の関係で父親以外の家族全員や時々家族全員」といった回答であった。

問5 あなたは食事のとき、きれいな物がでたらどうしますか。(1つだけ回答) 【回答総数：1,045】



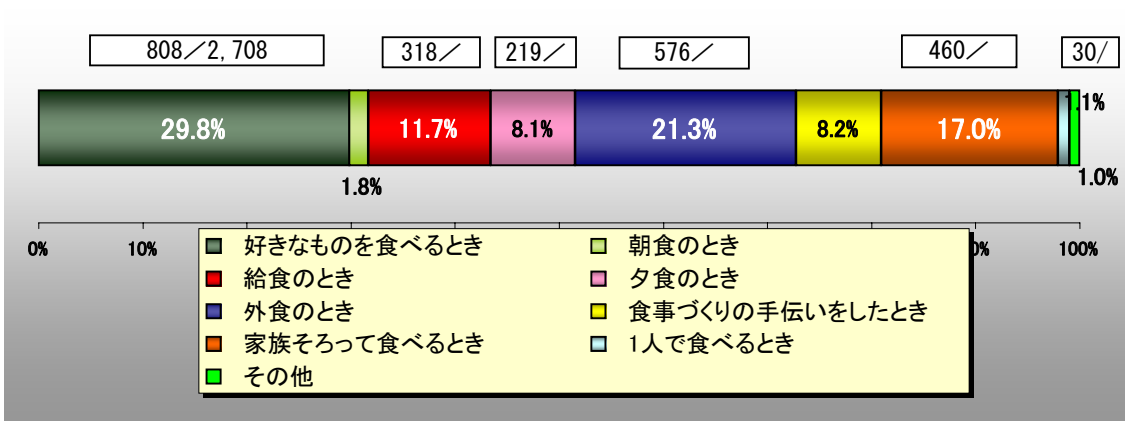
□結果

- ① 「いつも」及び「ときどき」がまんして食べる割合が全体の3/4。
- ② 「給食では食べる」との回答は13.7%、別に集計した学校給食校(完全給食・補食給食)の割合が高く、「いつも食べない」との回答は、ミルク給食校の割合が高い傾向。
- ③ 「その他」の回答も5%近くあったが、嫌いな食べものがないといった内容。

■分析

学校給食よりも家庭での好き嫌いの度合いが高い傾向が見られ、偏食傾向の強いいつも食べない子への対応について、学校と家庭が協力して、偏食をなくす取組みが必要と考えられる。

問6 あなたが食事のときで楽しいと感じるのはどんなときですか。(3つまで選択) 【対象者数：1,053】
【選択総数：2,708】



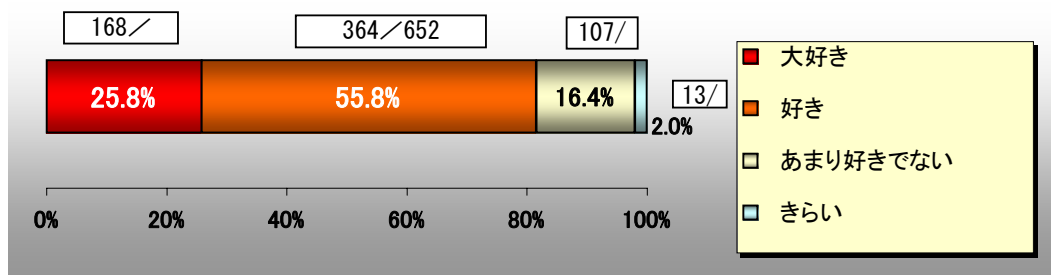
□結果

- ① 「好きなものを食べる時」との選択は3割、続いて「外食」、「家族そろって」の食事の順。
- ② 給食のときとの選択も約1割。
- ③ 「食事づくりの手伝いをした時」と「家族そろって食べる時」が合わせて約25%となっている。

■分析

外食を好む傾向が見える。また家族で食事することを期待していることがうかがえる。

問7 あなたは給食が好きですか。(1つだけ回答) 【回答総数：652】
—学校給食校（ミルク給食以外）の児童・生徒—



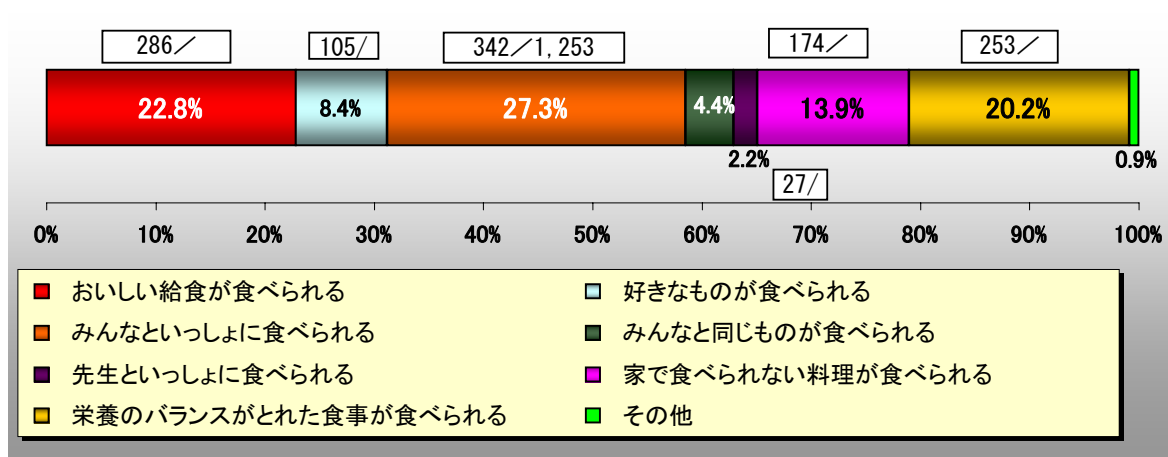
□結果

「大好き」との回答が全体の1/4で、「好き」との回答が55.8%。合わせると、8割を超える。

■分析

学校給食に対する好感度は高く、学校給食の取組みの成果がうかがえる。

問8 問7で「大好き」か「好き」を回答した理由(3つまで選択) 【対象者数：532 選択総数：1,253】
—学校給食校（ミルク給食以外）の児童・生徒—



□結果

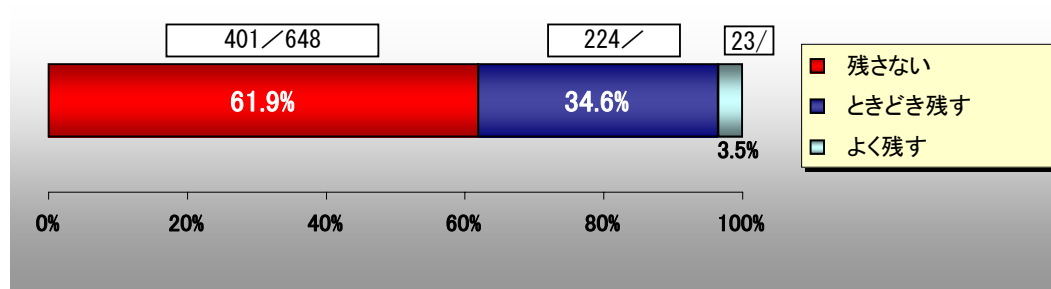
① 友だちと大勢で食べる楽しさを選択した割合が約3割弱で、味を選択した割合が2割強。

② 2割が、栄養バランスも理由として選択。

■分析

好きなものが食べられると思う割合はそんなに高くないが、おいしいと感じている傾向が見られ、献立や調理における味覚の上での創意工夫がうかがえる。また、栄養に関する知識や大切さを学び、学校給食について理解をしている。

問9 あなたは学校給食で出されたものを残すことがありますか。(1つ回答) 【回答総数：648】
—学校給食校（ミルク給食以外）の児童・生徒—



□結果

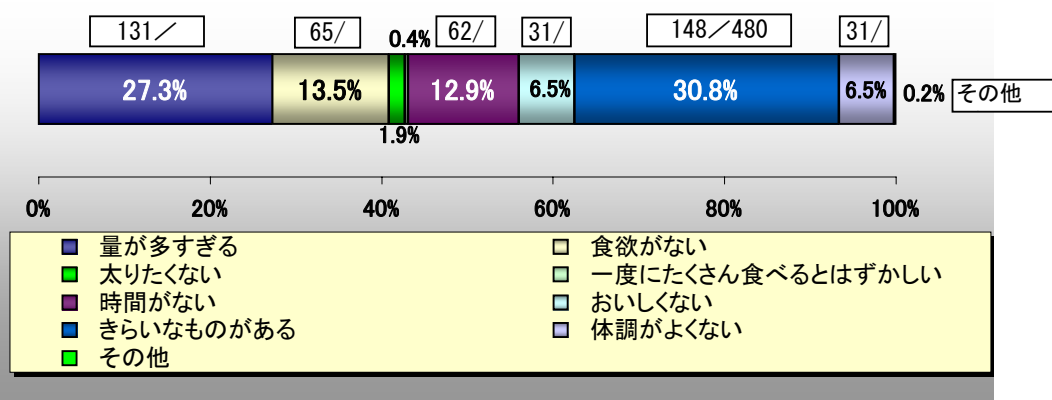
① 「残さない」と回答した割合は約6割。

② 「ときどき残す」は全体の約1/3で、児童・生徒別でも同様の傾向。

□分析

ほぼ6対4の割合で完食率の方が高い傾向ではあるが、学校間の違いも見られる。

問10 問9で「ときどき残す」か「よく残す」を回答した理由。(3つまで選択) 【対象者数：247 選択総数：480】
 -学校給食校（ミルク給食以外）の児童・生徒-



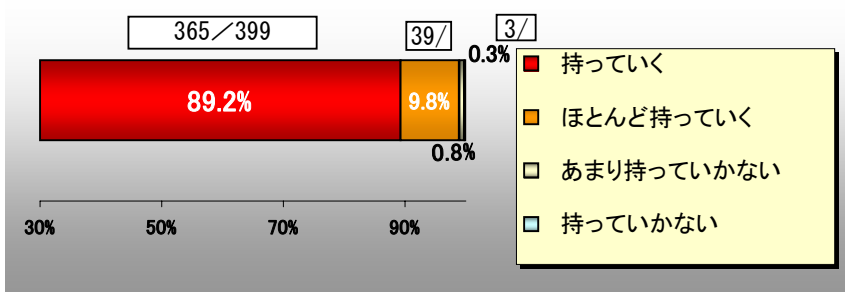
□結果

- ①「きれいなものがある」との選択が、3割を少し超える。
- ②「量が多い」との選択も約28%あり、「時間がない」が約13%。

■分析

量の問題や体調管理については、課題が見られ、改善に向けては別に具体的な調査分析等を行うことが肝要と考えられる。

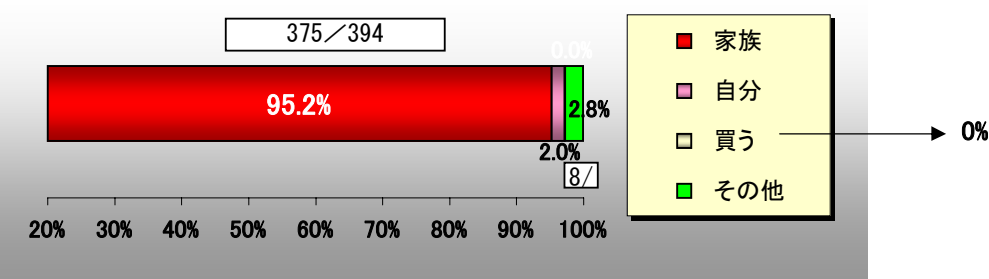
問7 あなたは学校へふだん弁当を持っていますか。(1つ回答) 【回答総数：399】
 -ミルク給食校の生徒-



□結果

ほぼ全員が弁当を持っていく。

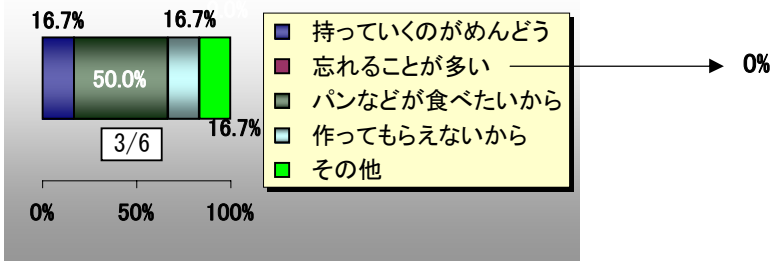
問8 問7で「持っていく」か「ほとんど持っていく」を回答した人について、弁当はおもに誰がつくるのか。(1つ回答) 【回答総数：394】
 -ミルク給食校の生徒-



□結果

- ① 弁当は家族の人がほとんどつくっている。
- ② 自分でつくるとの回答は2%の8人で、その他は美土里中学校の寮生が調理員と回答。

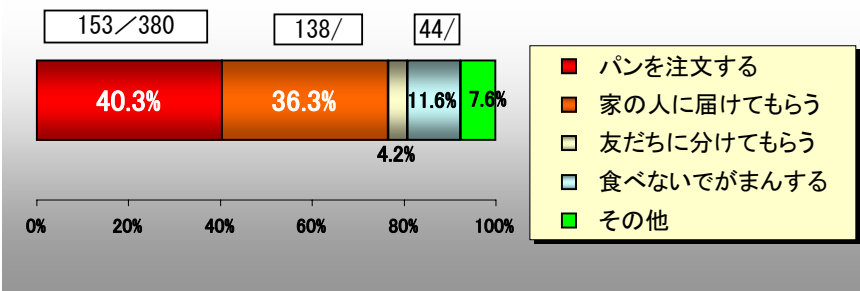
問9 問7で「あまり持っていかない」か「持っていかない」と回答した理由 (1つ回答) 【回答総数 : 6】
—ミルク給食校の生徒—



□結果

半数がパンなどが食べたいことを理由に回答。

問10 弁当を持っていかなかったときは、どうしますか。(1つ回答) 【回答総数 : 380】
—ミルク給食校の生徒—



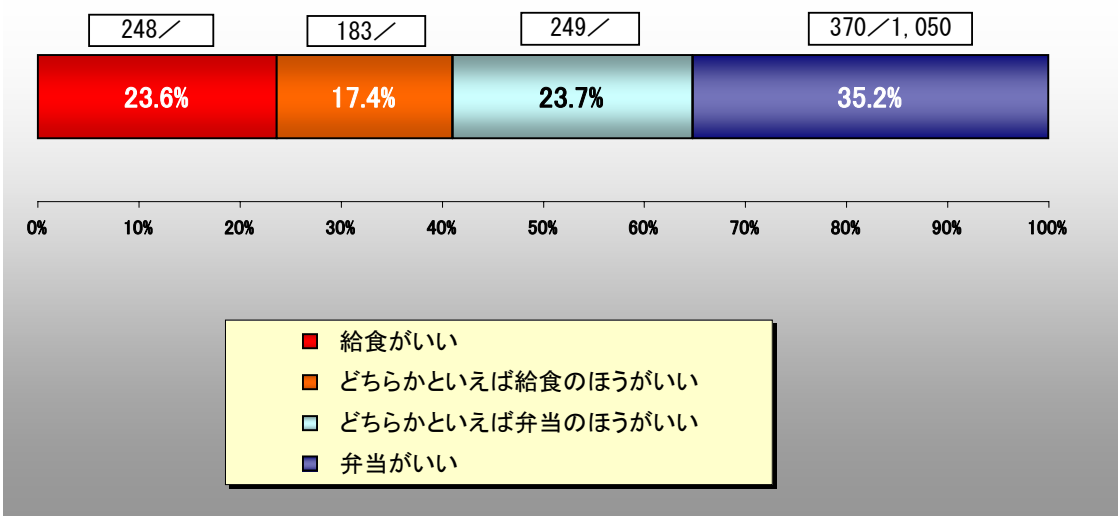
□結果

- ① パン注文との回答が4割。その他の回答も近くの店で購入するといった内容。
- ② 約1/3が家の人に届けてもらうと回答。

■分析

ふだんは、ほぼ全員が弁当持参かパン注文であるが、持っていかなかった場合を仮定した設問に対して、1割強が「食べないでがまんする」を回答している。食の大切さに関する意識の高揚を図ることも必要である。

問11 中学校の給食について聞きます。学校での昼食は、給食がいいと思うか、弁当がいいと思うか。(1つ回答) 【回答総数：1,050】



区分		給食		どちら給食		どちら弁当		弁当		計
学校給食校 (完全・補食)	小学生	96人	18.5%	80人	15.4%	126人	24.3%	217人	41.8%	519人
	中学生	77人	58.3%	24人	18.2%	18人	13.6%	13人	9.8%	132人
	計	173人	26.6%	104人	16.0%	144人	22.1%	230人	35.3%	651人
ミルク給食校	中学生	75人	18.8%	79人	19.8%	105人	26.3%	140人	35.1%	399人
合計		248人	23.6%	183人	17.4%	249人	23.7%	370人	35.2%	1,050人

※調査報告の中では、給食内容の違いを踏まえ、ミルクのみのミルク給食とそれ以外の学校給食(完全給食・補食給食)を対比しております。

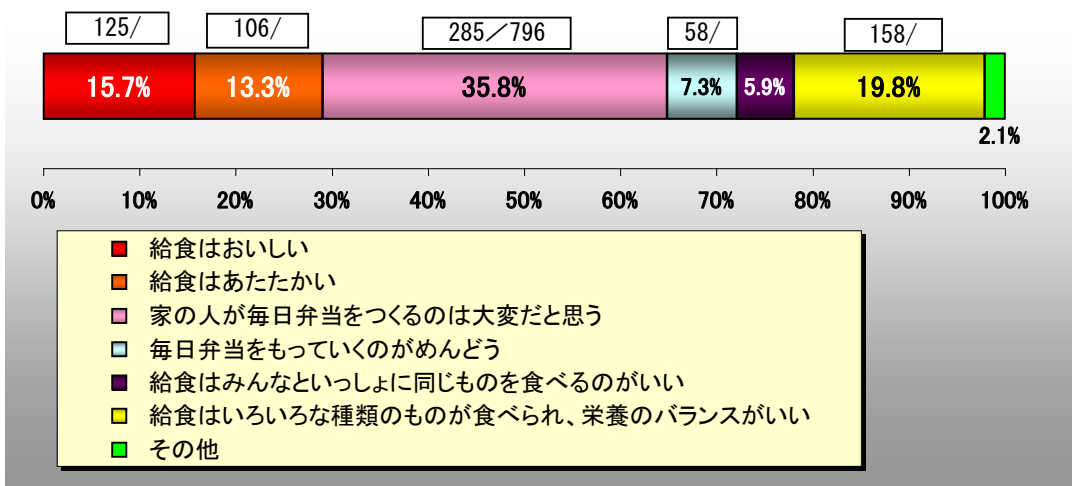
□結果

- ① 積極的に「弁当がいい」との回答が一番多く、全体の1/3を超え、「どちらかといえば弁当がいい」との回答と合わせて約6割近くが弁当を希望している。
- ② 別に集計したミルク給食校の中学生も同様の傾向であった。
- ③ 学校給食校を児童・生徒別に集計した結果を見ると、生徒については、全体傾向と逆の積極的に「給食がいい」との回答が全体の半数を超える77人、「どちらかといえば給食がいい」との回答を合わせると3/4になる。

■分析

学校給食に対する好感度は高くても、小学生では弁当がよいとする傾向がある。ただし、実際に小学生は弁当の給食を経験していないので、条件的に判断材料に欠けるところはある。中学生では、学校給食校の生徒は、学校給食がよいとする傾向が高く、ミルク給食校の生徒は弁当をよいとする傾向が高かった。全体として弁当に関する意向が少し高い結果となっており、こうした意向を汲み取る方策が必要である。

問12 問11で「給食がいい」か「どちらかといえば給食のほうがいい」を回答した理由。 【対象者数：431】
 (2つまで選択) 【選択総数：796】



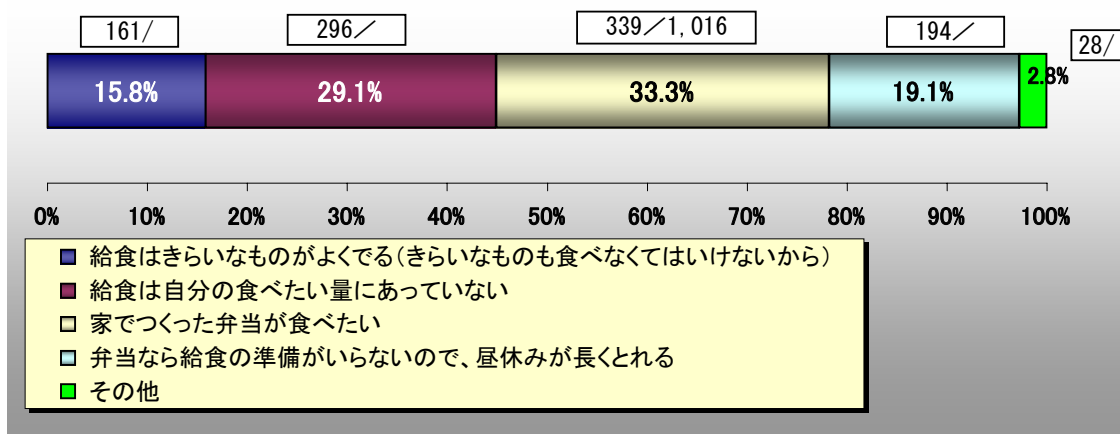
□結果

- ① 一番多く選択されたのは、「家の人が毎日弁当をつくるのは大変だと思う」で、全体の1/3を超える。
- ② また、味覚、保温、メニューの豊富さと栄養バランスなどがいいことも選択され、合わせると半数になる。

■分析

弁当づくりの負担を理由に選択する傾向が高いことは、普段の生活の中で、弁当に限らず食事の準備・後片付け等が大変であると感じていることがうかがえる。同時に、食事をつくる人への思いやりが感じられ、そのやさしさを一層育むとともに、学校給食においてもそうした意識の涵養が大切と考える。

問13 問11で「どちらかといえば弁当のほうがいい」か「弁当がいい」を回答した理由。 【対象者数：619】
 (2つまで選択) 【選択総数：1,018】



□結果

- ① 家でつくった弁当が食べたいとの選択が、全体の1/3。別に集計した児童・生徒別の割合では、児童の方が10%程度高い。
- ② 学校給食に関する不満では、量について3割、時間的なことについて約2割が選択。
- ③ 「給食はきれいなものがよくでる」という選択は約16%。

■分析

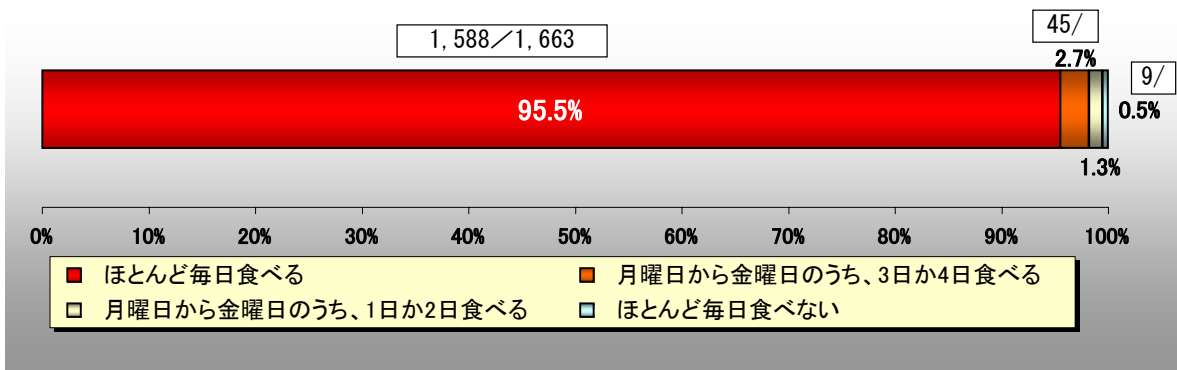
弁当は好きなものが多く入っていたり、実際に児童は弁当給食を経験していないので、イメージとして遠足、野外の楽しい行事やイベントの際に食べるといったプラス面を連想していることが考えられる。ここでの結果にも、学校給食における量や時間の問題があることがうかがえ、検討を要する。



調査結果と分析

保護者

問1 あなたのお子さんは、毎日朝食を食べて学校に行っていますか。（1つ回答） 【回答総数：1,663】



問2 <<問1で「ほとんど毎日食べない」と答えた理由（記述）>> 【回答総数：9】

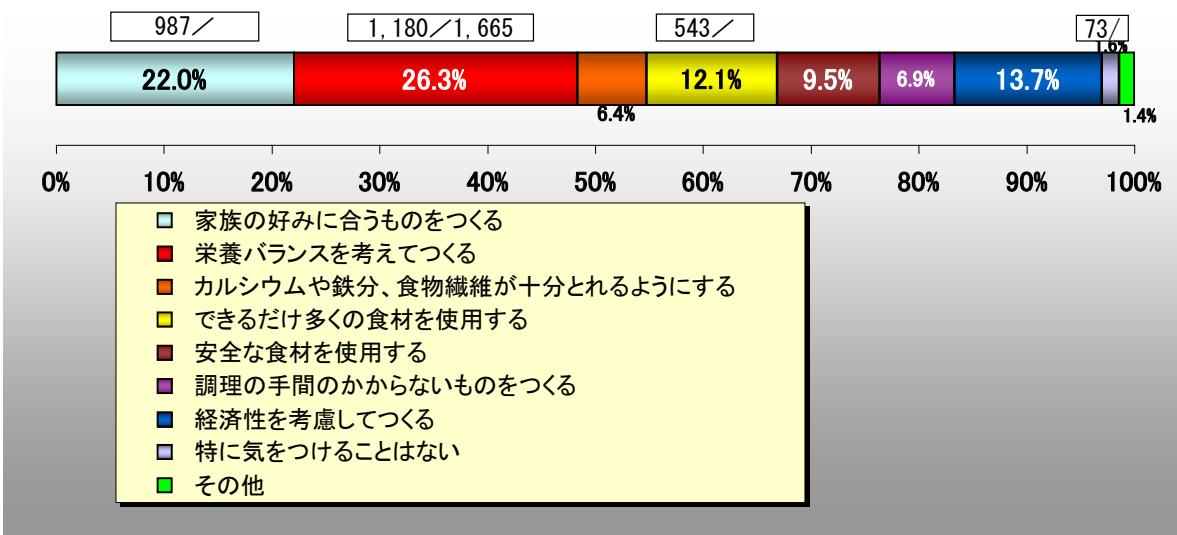
□結果

- ① ほとんどの児童・生徒が毎日朝食を食べている。
- ② 「ほとんど毎日食べない」と回答した方は、全体の0.5%で、その理由としては、子どもの朝起きる時間が遅いことをあげられている

■分析

朝食を摂食する習慣については、確立されていると考えられる。

問3 あなたの家庭では、食事の献立を決めるときに何に気をつけていますか。（3つまで選択） 【対象者数：1,665】 【回答総数：4,482】



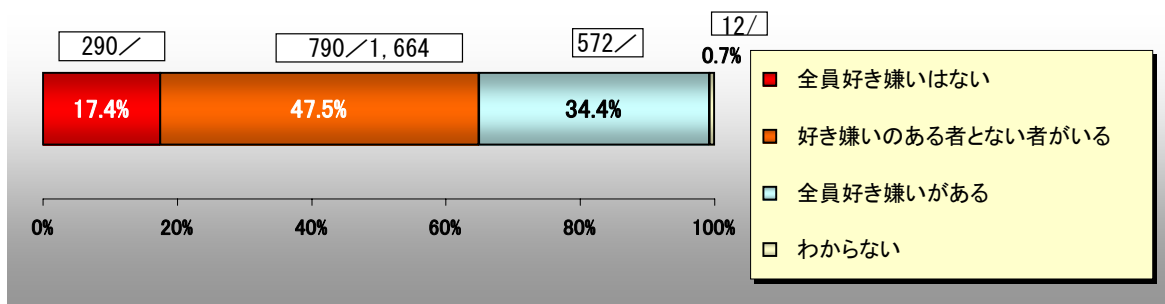
□結果

- ① 食事の献立については、栄養のバランスと家族の好みを優先に考えられている。
- ② 経済性を考慮する傾向もみられる。

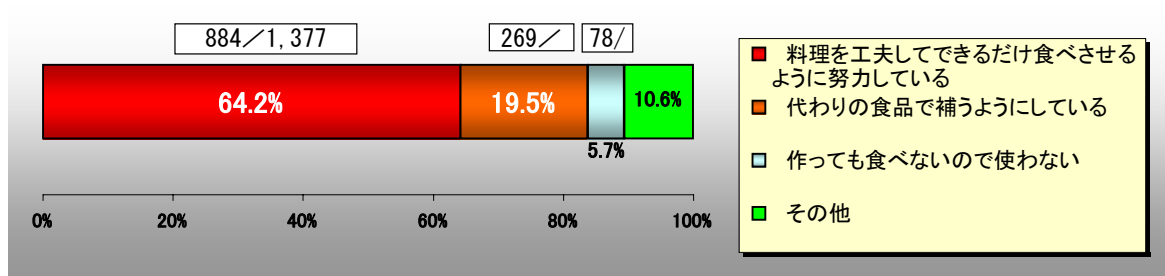
■分析

食生活に関する保護者の意識が高いことがうかがえる

問4 あなたのお子さんは、食べ物の好き嫌いがありますか。(1つ回答) 【回答総数：1,664】



問5 問4で「好き嫌いのある者となない者がいる」「全員好き嫌いがある」と答えた方にかがいます。お子さんの嫌いな食べ物はどのように扱っていますか。(1つ回答) 【回答総数：1,377】



□結果

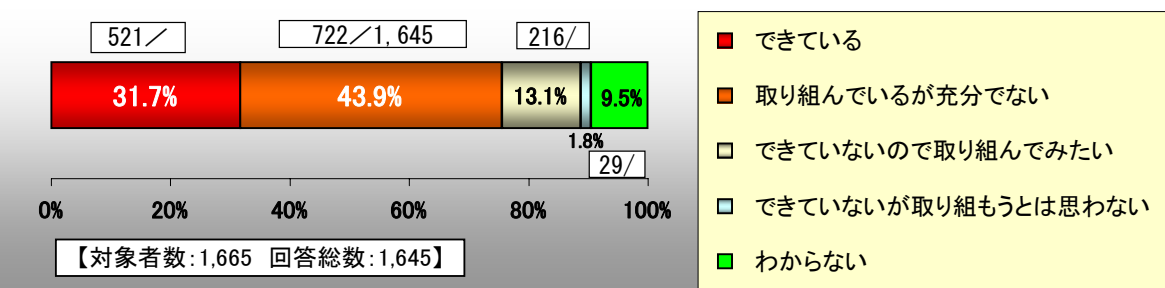
- ① 好き嫌いがある子どもがいる家庭が、全体のほぼ半数。
- ② 子どもが全て好き嫌いがある家庭も34.4%で、①と合わせると8割を超える。
- ③ 好き嫌いを克服するための対応として、保護者の多くは工夫して食べさせるように努力されている。
- ④ 1割がその他の回答であるが、「一口でも食べさせり、声掛けや話し合いをする」、「気にせず出す」といった内容。

■分析

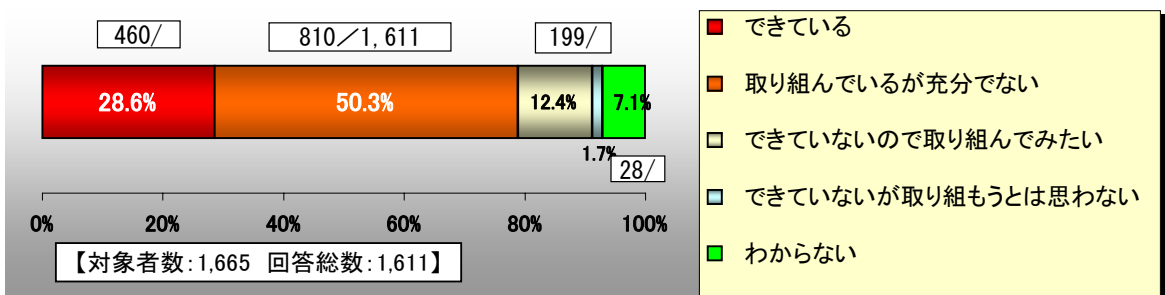
偏食の度合いを高めないためにも、学校給食と家庭において一貫した対応を継続することが大切と考えられる。

問6 国民の健康の保持・増進を目的に策定された「食生活指針」の行動目標の一部について、あなたの家庭では、食生活に関して次のことができていると思われますか。(1つ回答)

●「朝食で、いきいきとした一日をはじめましょう」



●「家族の団らんや人との交流を大切に、また、食事づくりに参加しましょう」



□結果

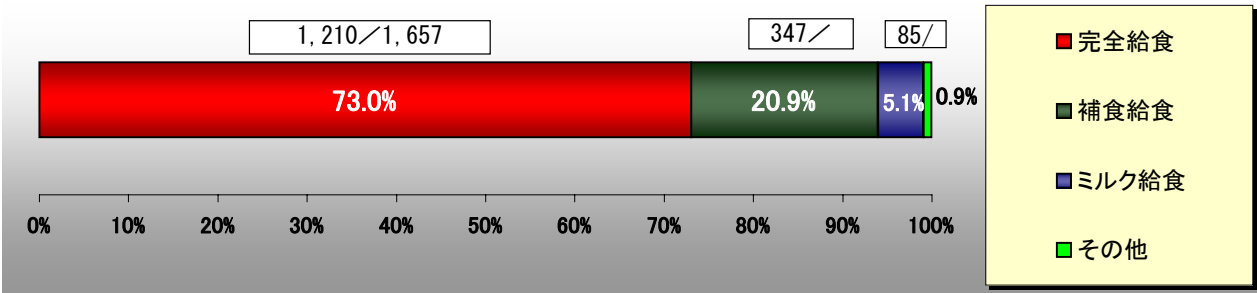
二つの行動目標に対して、「できている」及び「取り組んでいる」を合わせると約8割弱の家庭で実践されている。

■分析

家庭での食生活に関する意識は高いことがうかがえる。

問7 中学校での給食の形態についてうかがいます。あなたは中学校の給食形態はどの方法がいいと思われますか。(1つ回答) 【回答総数：1,657】

- ◇完全給食：ご飯とおかずが出る方式
- ◇補食給食：給食はおかずだけで、ご飯は自宅から持っていく方式
- ◇ミルク給食：給食は牛乳だけで、おかずとご飯を自宅から持っていく方式



現在の形態別		完全給食	補食給食	ミルク給食	その他
学校給食校 (完全・補食)	小学校				
	完全(12校)	727	137	34	9
	補食(1校)	71	54	0	0
小計		798	191	34	9
学校給食校 (完全・補食)	中学校				
	完全(1校)	77	3	0	1
	補食(1校)	45	38	1	0
ミルク給食校	ミルク(4校)	290	115	50	5
小計		412	156	51	6
計		1,210	347	85	15

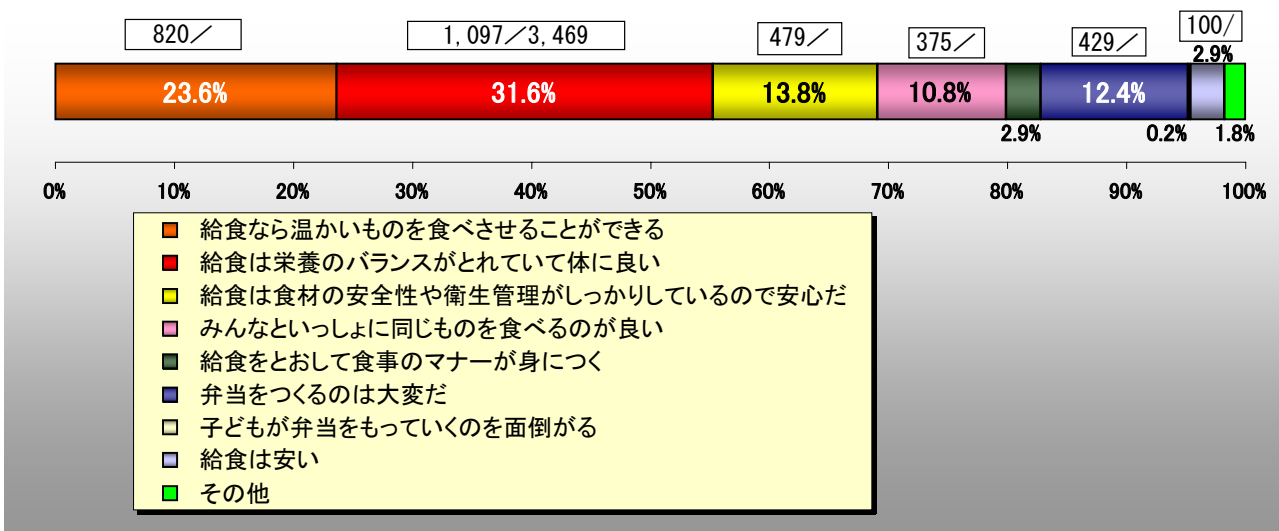
□結果

- ① 中学校においても、「完全給食がいい」との回答が7割を超えている(現在完全給食を実施している学校の保護者の回答割合が高い)。
- ② 補食給食がいいとの回答も2割強(現在市内19校のうち2校で実施しているが、2校の保護者に限って言うと、回答は40%を越え全体平均より高い)。
- ③ ①と②を合わせると「学校給食がいい」との回答が9割以上になる。

■分析

自由意見の中でも、早期に中学校の学校給食を望む意見が多く、学校給食に対する期待が大きいことがうかがえる。

問8 <<完全給食を回答した理由(3つまで選択)>> 【対象者数：1,210】
【選択総数：3,469】



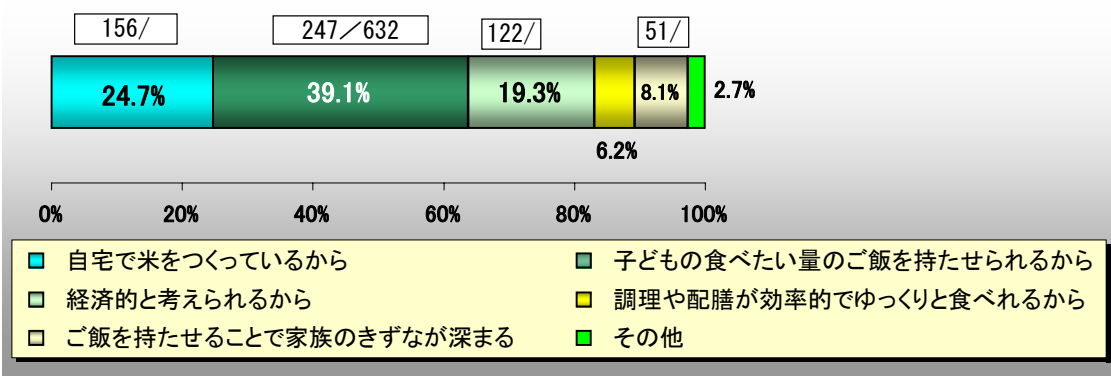
□結果

- ① 1番多く選択された理由は、「栄養バランスがとれていて体によい」。
- ② 続いて、「温かいものを食べさせることができる」、「食材や衛生管理の安全性」の順。
- ③ 弁当をつくる負担が大きいことを選択された割合も、全体の1割以上。

■分析

家庭の献立に関する回答結果と同様、食事における栄養バランスの大切さ、また学校給食の担う役割について十分理解されていると考えられる。

問9	《補食給食を回答した理由（2つまで選択）》	【対象者数：347】 【選択総数：632】
----	-----------------------	--------------------------



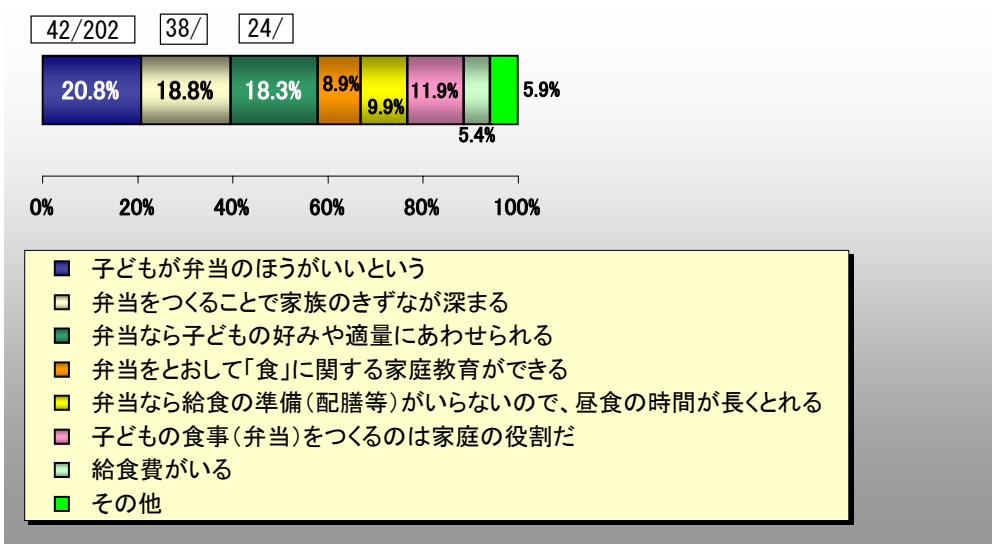
□結果

- ① ご飯の量を調整できるからと選択された割合が全体の4割。
- ② 自宅で作っていると選択された割合が全体の1/4。

■分析

別に集計した補食給食の実施校・未実施校別の選択結果においても、同じ傾向が見られた。

問10	《ミルク給食を回答した理由（3つまで選択）》	【対象者数：85】 【選択総数：202】
-----	------------------------	-------------------------



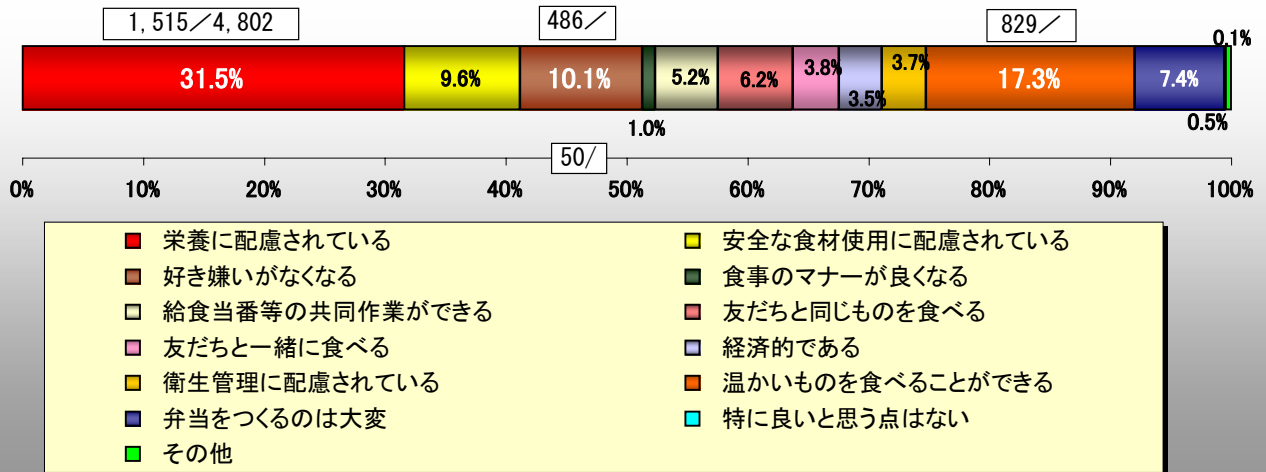
□結果

- ① 1番多く選択された理由は、子どもが弁当のほうがいいというもの
- ② 選択結果に偏りが無い。

■分析

ミルク給食がいいとの回答は、全体の約5%の85名、内半数の方が「子どもが弁当のほうがいい」という理由を選択されており、子どもの意向を尊重する姿勢がうかがえる。

問11 学校給食で、良いと思われる点はどのようなことですか。（3つまで選択） 【対象者数：1,665】
【選択総数：4,802】



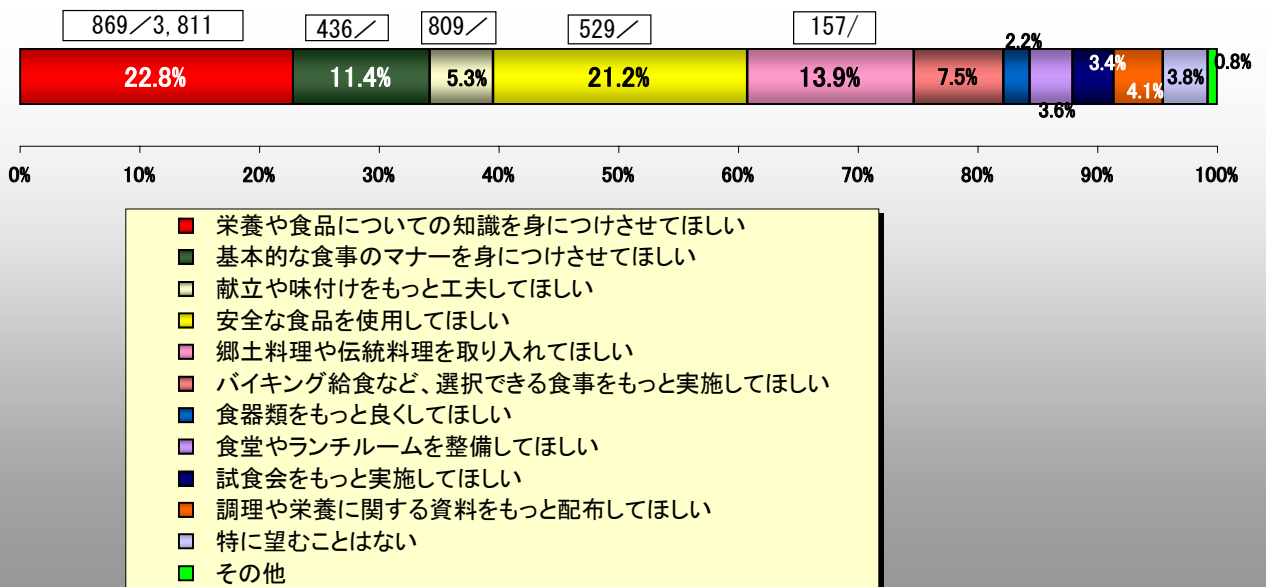
□結果

- ① 1番多く選択された良い点は、「栄養に配慮されている」。
- ② 続いて、「温かいものを食べさせることができる」、「好き嫌いがなくなる」、「食材の安全性」の順。
- ③ 「食事のマナー」、「友だちと一緒に」、「安い」を選択される割合は低い。

■分析

問8の完全給食を回答した理由と同様の選択肢を設定しており、それとほぼ同じ傾向となっている。好き嫌いがなくなるについては、全体の1割であり、この点における期待も大きいことがうかがえる。

問12 学校給食に何を望みますか。（3つまで選択） 【対象者数：1,665】
【回答総数：3,811】



□結果

- ① 希望が多かったのは、栄養や食品についての知識の習得(23.0%)と安全な食品の使用(21.4%)。
- ② 郷土料理・伝統料理、バイキング給食などの取組みへの希望も多い。
- ③ 問11の学校給食の良い点では、選択される方が少なかった食事のマナーを身につけさせることが、学校給食への期待では、大幅に選択割合を増加させた。
- ④ その他には、地産地消の促進や食べること・つくる人への感謝の気持ちを涵養する等があげられた。

■分析

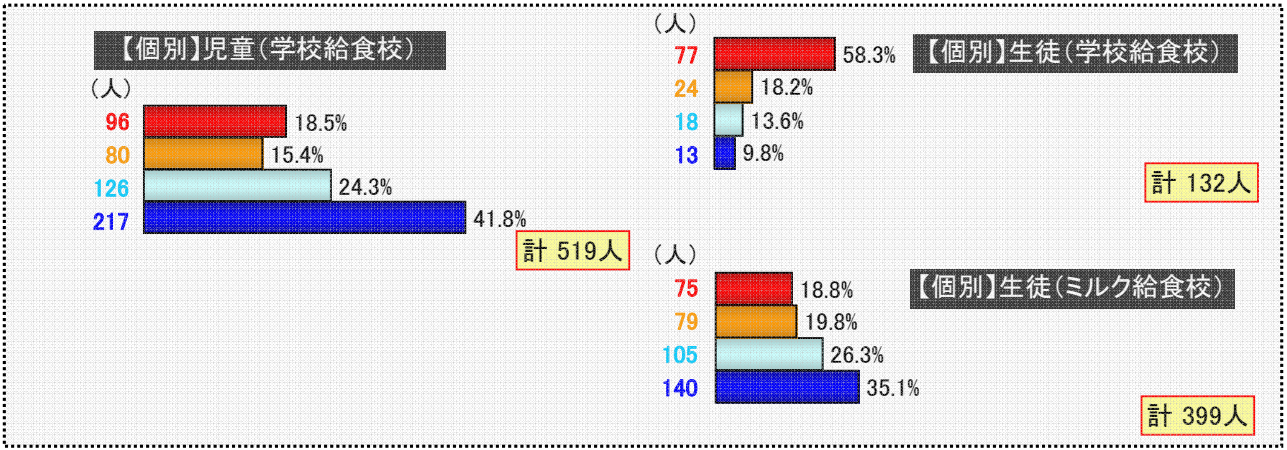
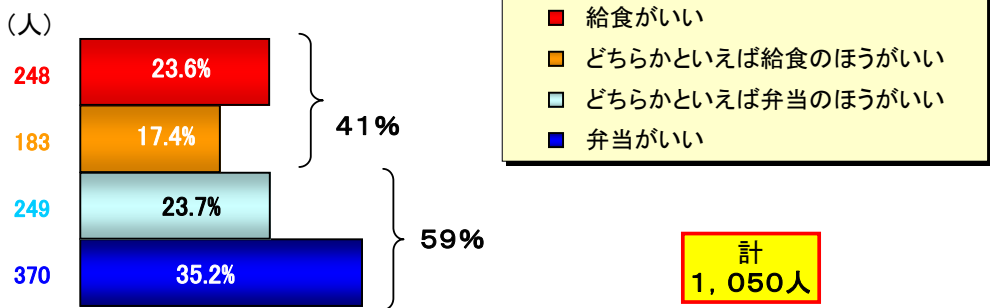
食に関する保護者の意識は高く、子どもへの意識高揚と確かな知識の習得を願っている。栄養面や食材の安全性を高めることについては、学校給食と家庭で進める一貫した取組みが求められている。同時に、市独自の特色ある学校給食の取組みについて、創意工夫が求められている。



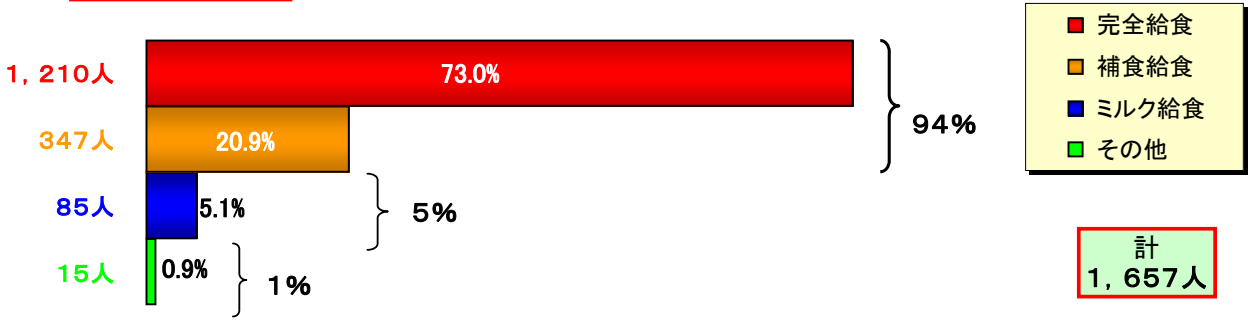
中学校給食に関する意向

再掲

児童・生徒



保護者



- 結果
- ① 児童・生徒は、4対6の割合で、弁当がいいとする傾向が少し高い。
 - ② 保護者は、圧倒的に学校給食がよいと考えている。
 - ③ 児童に限ってみると、弁当がよいと考えている。
 - ④ 学校給食校の半数以上の生徒は、給食がよいと考えている。
 - ⑤ 弁当を持参している生徒は、弁当がよいと考えている。



調査のまとめ

1 集計数

<児童・生徒>	小学校	中学校		合計
	(学校給食13校)	(学校給食2校)	(ミルク給食 4校)	
	522 人	132 人	399 人	1,053 人
計	522 人	531 人		
<保護者>	1,036 人	165 人	464 人	1,665 人
計	1,036 人	629 人		

[※ 対象児童・生徒は、小学校5年生以上中学校2年生以下]

[※ 対象保護者は、小・中学校の全保護者]

[※ 2人以上の児童・生徒の保護者は、最年長の学級を通じて、1通のみ提出]

2 食生活に関する考察

朝食の摂食については、しっかりとした習慣が身についている状況にあった。体調等の理由により、食べないとの回答もあったが、その要因は睡眠不足が考えられる。生活リズムを定着させ、よりよい食習慣を確立することが求められる。【P 3】

偏食につながる食べ物の好き嫌いの傾向については、学校給食よりも家庭の方がその傾向は高い。保護者の食に関する意識は高いものがあり、食べない子への対応を重点に置きながら、学校と家庭で協力して、偏食をなくす取組みが大切である。【P 4】

3 学校給食の現状

現在、安芸高田市内では、小学校13校と中学校2校（八千代中学校・向原中学校）で、完全給食及び補食給食を実施している。残りの中学校4校では、弁当を持参するミルク給食である。

アンケート調査では、学校給食校の児童・生徒は、学校給食に対する肯定的回答が全体の80%を超える結果となり、学校給食に対する好感度が高いことが明らかになった。その理由としては、友だちと大勢で食べること、給食の味、メニューの豊富さ、栄養バランスなどを挙げている。このことは、学校給食のねらいと合致する回答であり、学校給食の取組みの成果といえる。【P 5】

ミルク給食の生徒については、ほとんどが家庭でつくられた弁当を持参している。弁当を持ってこなかったときは、パンを注文したり、家の人に届けてもらったりするが、食べないでまんする生徒が全体の約1割であった。成長期にある子どもたちへの食に関する意識高揚を図っていくことが重要である。【P 7】

4 中学校給食に対する意向

(1) 児童・生徒の意向

児童・生徒に、中学校給食の意向をたずねたところ、6：4の割合で弁当がよいとする傾向があった。【P8・P17】 弁当がよいとする理由としては、「家で作った弁当が食べたい」とするものが一番多かった。【P9】

学校給食校の児童・生徒別の集計結果はどうかというと、児童では弁当がよいとする傾向が全体より高く、生徒では逆に学校給食がよいとする割合が高い。また、ミルク給食校の生徒は、弁当がよいとする割合が高く、傾向は全体とほぼ同じであった。【P17】

(2) 保護者の意向

中学校における給食の内容について、現在実施している完全給食・補食給食・ミルク給食の方法の中から意向をたずねたところ、順に約75%、20%、5%で、学校給食を希望する保護者がほとんどであった。特に完全給食を希望する理由としては、家庭での献立で気をつける点と同様、一番に栄養バランスがとれていることを選択された。【P13】

また、学校給食に望むことについては、栄養や食品についての知識の習得と安全な食品の使用を多く選択された。全体の約1割が、基本的な食事のマナーを身につけさせたいと望む結果となったが、むしろ家庭での積極的な取組みによる効果が高いことが考えられる。学校給食と家庭で進める一貫した取組みが重要である。【P15】

(3) 中学校給食にかかる考察

<3 学校給食の現状>で述べたとおり、現在の学校給食に対する好感度は、「大好き」と「好き」を合わせた割合が80%を超え非常に高い結果であった。給食の味、メニューの豊富さ、栄養バランスなどを理由として選択しており、栄養に関する知識や大切さもしっかりと学んでいる。一方で、児童が中学校給食は弁当がよいとする傾向が高い理由として、児童は弁当を持参する給食は未体験であり、弁当を想像したときに、これまでの体験から遠足や野外の楽しい行事・イベントを連想し、さらには好きなものが多く入っているとといったプラスのイメージが強いことが推測できる。児童の親に対する期待が高いことがうかがえるので、月1回『弁当の日』をもうけるなど、家庭との連携を深めるための方策も今後検討していく必要がある。しかし、反面で親に期待することがむしろ難しい状況の子どもに対する配慮も必要である。

また、学校給食校の生徒は、「学校給食がよい」とする割合が76.5%と高く、ミルク給食校の生徒は、「弁当がよい」とする割合が61.4%と高い。学校給食がよいとする理由は、家の人の負担を気にかけてのものが一番多く、弁当がよいとする理由は、「給食は自分の食べたい量にあっていない」が一番多い。このことから、児童に比べ生徒は、給食内容に対する思入れは強くなく、現状にかなり満足していることが推測できる。

保護者は、食に関する意識が高く、学校給食の担う役割について理解が進み、学校給食に対する期待も大きいことが再認識された。意見・要望の欄にも、早期に中学校給食の完全給食実施を望む意見が多数あり、完全給食実施に向けての検討を早急に進めていくことが求められる。

[おわりに]

学校給食検討会議では 昨年10月に今後の学校給食のあり方や調理上の再編整備のあり方について参考にするため、「学校給食と食生活に関するアンケート調査」を実施しました。

この結果を見ますと、朝食は90%余が食べて登校していること、児童生徒が楽しいと感じるのは好きなものを家族そろって食べる時であることなど、望ましい食生活が向上し頼もしく感じました。また、学校給食については、完全給食実施校の中学生は76.5%が給食を希望しており、学校給食に対する好感度が非常に高い結果が出たことも嬉しいことです。しかしながら、小学生では66.1%が弁当を希望していること、保護者は94%が学校給食を希望している等、学校給食実施上、考慮を要する課題も見えてきました。

最近の食環境は大きく変化し、食べ物に対する価値観は個々で大きく異なり、健康に生きる食習慣を身につける必要性が求められています。

このような時代には、学校給食の開始時とは異なった学校給食の存在意義と、食育などのよりよい食習慣の形成など学校給食の持つ機能には大きな期待が寄せられるところです。

当検討委員会では、安芸高田市の児童生徒の健やかな発育発達と日々の健康を願い、この調査結果を尊重して、より良い安芸高田市の学校給食のあり方について幅広く検討したいと考えています。先生方をはじめ学校関係者、保護者の方々のご協力、及び、教育委員会の皆様のご努力でまとめることができました。御協力を感謝します。

安芸高田市学校給食検討会議 会長 瀬尾 温子